

一人の赤ちゃんはいない 親子の不思議なつながり

- 【A】 子どもの頃の不思議な体験：解けた謎
- 【B】 最初の出会い
- 【C】 初期の養育者とのやりとり
五感、感情、行動
- 【D】 抱っこ
- 【E】 基本的信頼
- 【F】 あたりまえの環境

【A1】 子どもの頃の不思議な体験

～発達心理学を学んで解けた謎～

- a) 幼稚園の頃、**ウソ**は親にはばれていると思う。
- b) 幼稚園年長の頃、「**死ぬのが怖い**」と思う。
- c) **ぬいぐるみや毛布**が手放せなかった。
- d) 小学校低学年の頃、「**自分とは何か**」と悩む。
- e) 自分は**もらい子**ではないかと悩む。

(**本当の親**はどこか他にいる。)

※b) d) は思春期には多いがそれ以前の場合

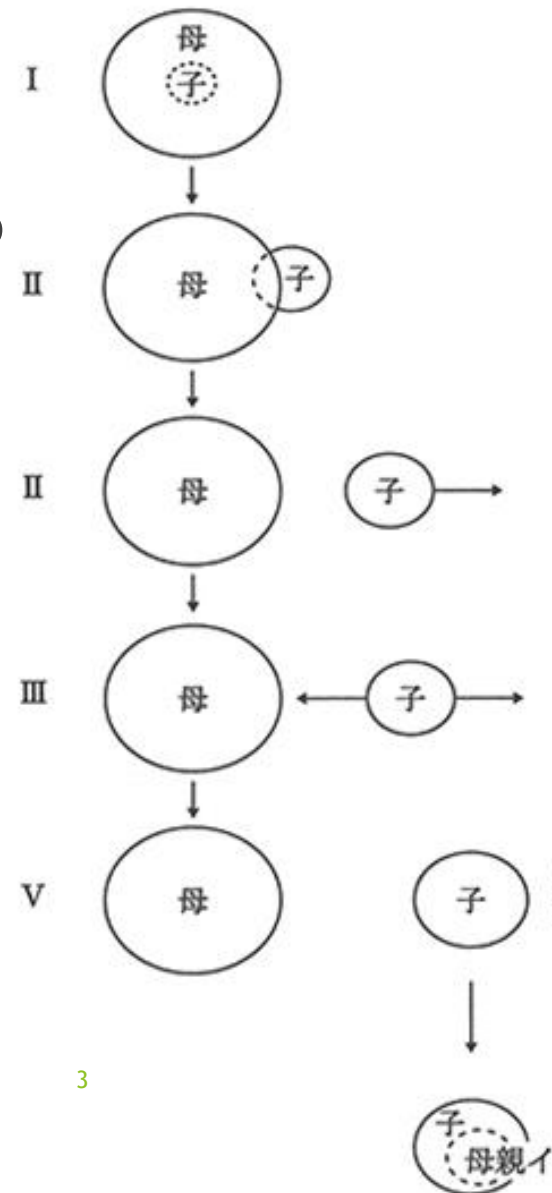
【A2】 母子一体から個の私へ：謎解き

I お母さんと一緒（母子一体）

II 母子は分離しても心がつながっている
透過性＝ウソがばれる

III 私と母は別の「個」
死ぬと独りぼっち

III（母と分かれてできた）私とは何か？
3歳頃から「私」の記憶
それまでは記憶なし



【A4】移行（過渡）対象

- ◆ ウィニコット（英の小児科精神分析家）
- ◆ **移行対象**＝いつも離さず持っている
毛布、ぬいぐるみ、タオルケットなど
- ◆ 母親に**依存**している段階から
子どもが一人で**自立**する段階への
「**移行**」段階で生じる（**母の代理**）
- ◆ 現実・外界と幻想・内界との中間
「そこにある」と「心で作った」の中間
- ◆ **見えない（想像上）の友だち**も

【A9】 ウィニコットの母子関係論

- ◆ 「（一人だけの）赤ちゃんはいない。母親と赤ちゃんという一組のペアだけがいる」
- ◆ 環境としての母親と対象としての母親
- ◆ 原初の母性的没頭
- ◆ ほどよい（good enough）母親
- ◆ 「幼児は母親と（二人で）いるから一人になれる（一人で遊べる）」
＝母親がいなくなると遊べなくなる

【B1】 最初の出会い：刷り込み

- ◆ インプリンティング（**刷り込み**、刻印付け）
- ◆ カモはある時期（**臨**界期）に最初に見た動くもの（ふつうは母鳥）を後追いする。
- ◆ 一発で学習し、修復不可能
- ◆ 動物行動学者ローレンツが発見

【B2】 最初の出会い

- ◆ 人間には「刷り込み」はない
- ◆ クラウスとケネル「親と子のきずな」
- ◆ 出産直後の**早期分離**⇒発育不全症や虐待？
- ◆ 母子が分離すると長期に**マイナスの影響**
- ◆ 誕生直後の「感受期」「敏感期」に母子が接触することが長期にプラスの影響
- ◆ 批判もあるが悪影響はない

昔産湯

今即抱っこ

【B3】 最初の出会い：低出生体重児

- ◆ 低体重出生児（未熟児）のケアの問題
- ◆ 早期分離（保育器）のため母子接触が阻害
 - ⇒ 放置すると母子関係の問題
 - △ かわいく感じない
 - △ 虐待してしまう
- ◆ 保育器の中でもタッチ母乳（冷凍 - 解凍）
カンガルーケア
 - ⇒ 「スイッチが入る」

【C3】ウ) 微笑

- ◆ ①生理的（自発的）微笑：刺激に無関係
- ②社会的微笑（人に：3か月～）
- ③選択的微笑（特定の人に：7・8か月～）
8か月不安・人見知り
- ◆ 大人の反応
 - ①幸せ、かわいい、愛情⇒子育て
 - ②コミュニケーション⇒愛着
- ◆ 「赤ちゃんが笑わない」（乳児院）

【C4】 エ) 泣き

- ◆ 原因：空腹、目覚め、オムツ、低温、不明…
- ◆ 種類：①かまって、②痛い、③怖い
- ◆ 「かわいい」泣き⇒母乳の促進、母親スイッチ
- ◆ 耳ざわりな泣き：気づく・対応するように
- ◆ 母親の介入→成功→機嫌回復、入眠
→失敗→泣く、泣き疲れて眠る
→母の不安・イライラ
- ◆ コリック＝数時間泣き続ける（なだめても）
- ◆ 夜泣き：2-3mと7-9mにピーク
- ◆ ウソ泣き：8か月児も？

【C5】オ) 母乳

- ◆ 最大の喜び・母親の自覚のきっかけ
- ◆ 母乳⇒ホルモン活性化、かわいらしさ増大
- ◆ フロイトの口唇期：母親からみると母乳期
- ◆ それだけに悩みもいろいろある
 - ①母乳が出ない
 - ②母乳が出すぎる
 - ③うまく吞んでくれない
 - ④乳腺炎になる
- ◆ 母乳があたりまえ人工乳は悪いという罪悪感

【C8】情動調律（スターン, D）

- ◆ 情動調律：子どもの行動・情動に「合わせて」、大人が行動・ことば・表情等を反応する
- ◆ 強さ・タイミング（歯車）・形が合う
- ◆ 例：乳児が体を揺らすと母がその動きに合わせて声を出しながら手を振る
- ◆ ① 共にある調律：一緒にいる感覚
- ◆ ② 選択的調律：選択的に反応/無反応
- ◆ ③ 誤調律：ズレ・非共有（非意図的）
興奮を徐々に落ち着かせる（意図的）

【D1】抱っこで泣き止むのはなぜ？

- ◆ 五感を通じた**安心感**
- ◆ **なだめ**られて落ち着く
- ◆ **子ザル**はふつう抱っこされている
- ◆ 子どもが消化できない不快さを
母に渡して代わりに消化してもらう
※対象関係論（精神分析）の考え方
- ◆ 食べ物の消化（口移し）となだめの類似

【E3】 I 乳児期（0-1歳）の心理社会的危機

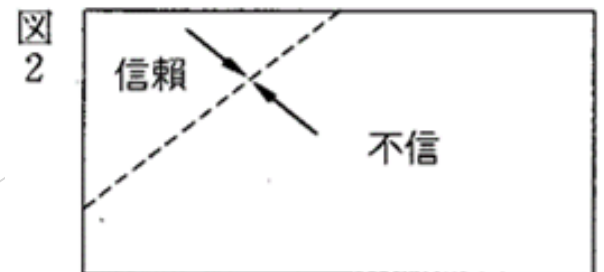
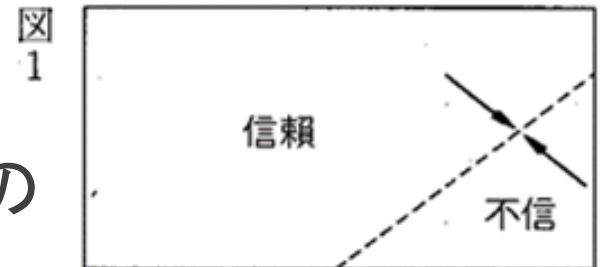
- ◆ 赤ちゃんという存在はない。母（養育者）と赤ちゃんという組があるだけ（ウィニコット）
- ◆ ♪げんこつ山のたぬきさん／オッパイ飲んで／ネンネして…♪
- ◆ ただ「飲む」のではなく「安心して飲む」
- ◆ ただ「寝る」のではなく「安心して眠る」
- ◆ そのためには母（養育者）の「見えない（子どもには感じられない）動き」が必要
- ◆ 食事・睡眠は健康と成長の基本

【E4】 基本的信頼

- ◆ 空腹・眠気・不安・恐怖・などのために泣く
⇒ **誰かが来てくれる** ⇒ 次のことを体得
- ◆ ①泣くのはつらいけど、**慰めてもらえる**
= **世の中は悪いところではない** = 安心感の萌芽
- ◆ ②大切にしてもらっている
= **自分は助けられる価値がある** = 自尊心の萌芽
- ◆ ③泣くと**誰かが来る**
= 自分には**生きる力**がある = 有能性の萌芽
- ◆ ⇒ **自分**（存在価値と能力）と**外界**（母・養育者）
に対する**基本的信頼**

【E5】 不信

- ◆ うまくいかない ⇒ **不信感が信頼感を上回る**
- ◆ ①' 誰にも助けてもらえない
⇒ 世の中は**ひどい**、生きていくのは**つらすぎる**
- ◆ ②' 大切にされていない
⇒ 自分は生きる価値がない、**居てはいけない**
- ◆ ③' 誰もきてくれない
⇒ 泣いても**無駄 = 学習性無力感**
- ◆ エリクソンは青年のクライアントの悩み（不信体験）から健康な人の基本的信頼を考え出した



【F5】 「あたりまえ」の環境

- ◆ 子どもと大人の「あたりまえ」は異なる
- ◆ 2つの欲求(サリバン)
- ◆ 欲求充足 = 欲求を充たしてあたりまえ
- ◆ 安全保障 = 安全・安心であたりまえ
「驚かせてゴメン」
- ◆ 環境のゼロ点 (とプラス・マイナス)
- ◆ ベッドに置く (一) 背中スイッチ?
⇔ 抱っこがあたりまえ
見ててあたりまえ
⇔ 「一人でできるでしょ」 (一)

【F7】 「ほどよい」 母親

- ◆ 上限（**してはいけない**）～下限（**しなければならない**）の間は
個性（優劣がない）
- ◆ 「**ほどよい母親**」（ウィニコット）
欲求を満たす必要はあるが
過度の充足・母との一体化は
適度な欲求不満・ズレが体験できずに
乳児の「自己」の発達を阻害する
- ◆ 河合隼雄「過保護なくして親離れはない」
「過保護」が「親離れ」の条件

上限

個性

下限